
松山フライブルク会会報



独日協会フライブルク松山会 ユルゲン ヴェルケ 会長 撮影

編集・発行：松山フライブルク会

まつやま国際交流センター内

〒790-0003 松山市三番町 6-4-20 コムズ 1F

2016 年

森林都市 フライブルク

会長 八東 大三

会員の皆様 明けましておめでとうございます。晴天に恵まれた元日、皆様には良き新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。本年は姉妹都市提携30周年まで2年余りと中間点の年となりますが、松山フライブルク両市間の友好親善の発展のために有意義な年となりますよう皆様と共に当会の活動を進めて参りたいと思います。宜しく願い申し上げます。



さて、先日「緑の都市フライブルク」というパンフレットを読みました処、「市域の43%は森林地帯(6400ha)でフライブルク市はドイツで最大の森林オーナー都市の一つである」という記述を見つけました。確かにミュンスターの背後には「お城山シュロスベルク」の緑が迫っていますし、市電で郊外に出るとシャウインスラントなど黒い森(シュヴァルトツヴァルト)の縁に到達します。どこか松山市に似た雰囲気を感じます。フライブルクは第二次世界大戦で焼け野原になりました。又、黒い森は公害による酸性雨で重大な損害を蒙りました。そのような歴史の中で市民が営々と緑を育て守ってきたのですね。この事に関連してマルティンルターの(と云われている)有名な言葉があります。「世界が明日滅びると知っていても、私は今日の内に猶、林檎の若木を植えるだろう」という言葉です(出典 小塩 節著NHKラジオテキスト)。平らな国土の30%が森林であるドイツでは緑の森林は人間が造って大事に育てていくもの、此の言葉は将に森の民ドイツ人の高い志と基本的メンタリティーを表わしていると云えるでしょう。自然を愛する我々日本人の心情と相通ずるものが有る様に思います。姉妹都市30周年の記念式典の際には多くの皆様と共にフライブルク

クを訪問して「杜の都」の雰囲気を味わい、自然を愛する市民同志の交流を深めて、又、松山市のことを考えてみる機会を持ちたいと思います。

今年が会員の皆様にとって素晴らしい年となりますようお祈り致します。

以上



独日協会フライブルク松山会 ユルゲン ヴェルケ 会長 撮影

フライブルクの2015年

独日協会フライブルク松山会
会長 ユルゲン ヴェルケ

当会の新年最初の行事は恒例の新年会で1月24日に開催されました。料理は会員の持ち寄りのビュッフェパーティーで色々な美味しい食べ物が並びま



新年会

した。書道、折り紙、茶道などの日本文化が披露され、全員で日本と



新年会

ドイツの歌を合唱しました。フライブルク市の年賀交換会にも参加いたしました。



年賀交換会

フライブルクに於ける一番のセンセーショナルな出来事は2月1日に行われたSCフライブルクの新しいサッカー場建設の是非を問う住民投票で、58.2%の市民が空港に隣接する場所に建設予定のサッカー場に賛成しました。投票の時点でSCはブンデスリーグの1部リーグでプレーしていましたが、シーズン終了時には2部に陥落してしまいました。それでも終了直前にはFCバイエルンにホームで2対1の勝利、当日はFCとSCのユニフォームを着た乗客で市電は大混雑でした。ちなみに、今シーズンのSCは目下2部リーグの第2位で再び1部へ昇格するチャンスがあります。



SC フライブルク

5月5日、早朝からゼーパーク傍の公民館前に鯉幟を掲げて、永年に亘って恒例の子供の日祭りを開催しました。子供会のお母さん方の合唱で開幕した後、在ミュンヘン日本国総領事館からの挨拶もありました。ロビーでは盆栽と生け花の展示、書道、折り紙、茶道の披露、それに壇上では日本武道の実演が行われました。

鈴木メソッドで練習した若いヴァイオリニストによる自信に満ちた演奏、コスプレ、剣舞と続き、来場者はコーヒーとケーキだけではなく抹茶と即席ラーメンでもてなされました。



子供の日



子供の日



子供の日

6月、2年ごとに開催される姉妹都市メッセに当会も参加、市役所前マルクト広場の松山市テントで多くの会員が浴衣で応対しました。松山市から寄贈された大太鼓が剣舞に合わせて演奏され特別なクライマックスを演出しました。



姉妹都市メッセ



姉妹都市メッセ



姉妹都市メッセ

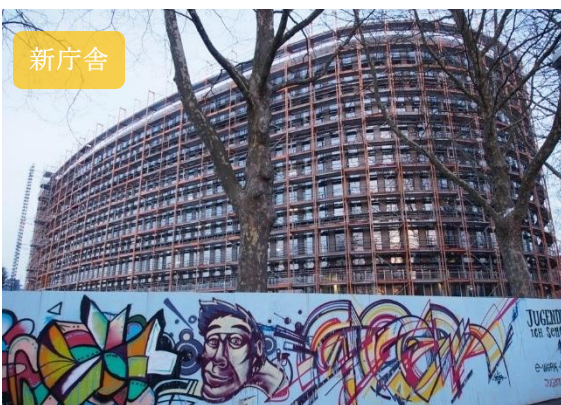
6月30日に大学の新図書館のお披露目がありその現代建築について賛否両論が沸き起りました。多くの人がそのファサードを「嫌な不気味な」と評価し、一部の人は「死の星」だしましたが、私自身はこの新しい建物が気に入りました。特に観る位置、太陽の方位、それに時刻によって変化するファサードのガラスの多様な反射の状況に魅了されました。



新図書館



新図書館



7月2日、商工会議所との共催で日本の経済政策についてのシンポジウムを開催、日本総領事の柳氏が流暢なドイツ語で講演されました。

秋になって、ドイツで最も人気のあるテレビ番組「タートオルト（犯行現場の意）」の撮影がフライブルクで初めて行われて話題となりました。人気スターのハラルドシュミットが警部役のこの番組はイースターの月曜日に放映されます。

12月に市電の延長工事が遂に完成、12月11日に新しい4号線が開通しました。市の西側を通過して北部郊外のグンデルフィンゲンに至る路線で、これによって市電ネット構想の一部が実現しました。

12月18日に3月に基石が打たれた新市庁舎の上棟式が挙行されました。

2016年末に完成すると市内のアチコチに分散していた全ての部局の職員が一箇所に集まることが出来ますが、この8千万ユーロの大プロジェクトの予算及び納期を今までのところ守れていることを、市の上層部は特に喜んでいます。

さて、特記すべきは、この年の温暖で乾燥した天候です。夏には数週に亘って雨が降らずドライザーム川がほとんど干上がりました。秋は暖かく12月には20度に達する日があり、標高約1500メートルのフェルドベルク山には12月末になっても未だ雪がありません。ドライザーム川畔では咲き始めた桜も見られます。

最後に、ドイツ全体で議論になっている難民問題ですが、ここフライブルクもその例外ではありません。現時点で1880人が難民施設に、787人がホテルのような小さい施設に分散して

住んでいます。今年は、更なる収容人数増加をやり遂げなければいけないでしょう。フライブルク市民はとても親切で物資の提供、語学研修など実用的な援助を行っています。

独日関係でもう一つ、フライブルクの半導体メーカー マイクロナス社が日本のTDKグループに合併吸収されました。

終わりに、フライブルク松山会は、新しい年が松山フライブルク会にとって素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。

以上

内子町ドイツフェスタ2015」に参加して

千種 壽美



秋に入ったばかりの10月3日土曜日、お昼前にコムズに集合し、内子に向かってバスは進みます。

内子町はドイツのローテンブルク市と姉妹都市で、それを記念して「ドイツフェスタ」を開催しています。八束会長の解りやすいビールの説明を聞きながら40分ほどで内子町に到着。

会場の「まちなか^{なんぜ}の駅Nanze」と内子町ビクターセンター^{あるんぜ} A・runze」まで少し歩いていくと

急に視界が広がり、イベントの賑わいと匂いが私を包みます。5枚つづりのチケットはレーベンブロイオリジナルジョッキ引換券と飲食券4枚で、内子町のお店が協力して美味しい食べ物と交換出来ます。からりオリジナルのドイツ風ソーセージには長蛇の列が…。私は豚のソテー・から揚げ・ポテトの入ったワンプレートと冷たいビールを頂きました。10月なのに夏のような日差しの会場では冷たいビールのおいしいこと！！

舞台では「愛媛リエート吹奏楽団」がドイツの音楽を奏でて場を盛り上げてくれます。

その後、会場を後にして内子の町並み散策に向かいました。商店街もドイツフェスタに賛同し、「500円商店街」として各店舗の前に工夫を凝らしたお土産が並びます。先ほどのチケットも使用でき、私は久しぶりに名物「栗饅頭」を購入しました。

今回、初めて「ドイツフェスタ」に参加しましたが、バスを出して頂いたお蔭でビールも美味しく飲んで、本当に楽しい一日を過ごす事が出来ました事に感謝致します。



松山フライブルク会恒例のドイツの家庭料理教室

花山 早苗

今回のドイツの家庭料理は、お馴染み『レストラン門田』のシェフで当会理事の門田氏を講師にお迎えし開催されました。

フリカ デレ ヒンメル ウント エルデ
メニューは『 Frikadelle 』と『 Himmel und Erde 』です。

ドイツ風ハンバーグの『Frikadelle』は馴染みのあるハンバ



ーグに近いということも

あり、手順の理解や料理の作業も手際良く早く完成しました。もう一品の『Himmel und Erde』はじゃがいもとりんごの蒸し煮です。こちらの料理も複雑ではなく比較的簡単に仕上がりました。

5つのグループに分かれて料理をしましたが、各チームとも作業分担を上手にされ、工程は順調に進んだようです。予定していた時間より早めに完成しました。



楽しみにしていた試食ですが、勿論美味しくいただきました。クッキーやハーブティーも用意をしていただき、お料理の余韻にもゆったりと浸ることもできました。感想を述べ合った際も、Frikadelle について「ソースのアレンジやお弁当への利用など応用できるのでは」といった料理に興味のある参加者ならではの活発な意見も出ました。直ぐに再挑戦し家族にも食べさせてあげたいような雰囲気でした。また門田講師へは料理している際にも質問をし、ちょっとしたヒントなど教わり、料理の腕前アップにつながった方もいたのではないのでしょうか。

数日後に会った参加者からは、余っていたりんごで早速 Himmel und Erde を作ったところ、家族の評判も良かったとの話を聞くことができました。このように参加された方の後日談を頂けることは、大変参考になります。

尚、先に美味しくいただきましたと記しましたが、みんなの意見とその様子、そして完成品を見ての感想です。

みんなとても楽しく食されていました。苦手な食材がある私は同じグループとなった皆様のご協力のもと、その食材以外の調理工程を担当させていただきました。勿論、前日の材料の調達の時から当日の分量の小分け作業までも、理事の皆さんに助けをいただき無事に準備ができました。講師の門田シェフ、参加してくださった皆さん、ありがとうございました。次回も楽しい料理教室が開催されることを願っています。



事務局から会員の皆さんへのお知らせ

1) フライブルクからの訪問者の、ホストファミリーをしてみませんか？

フライブルク市民が、個人で松山市を訪問する機会が増えています。その際に、1泊から数日間、ご自宅で受け入れてくださることのできる会員はいらっしゃいませんか？

* 受け入れをお願いするのは、松山市出身で現在フライブルク市在住の大門学氏からのご紹介の方のみです。(大門氏は、松山市の委託を受け、姉妹都市交流のコーディネーターとしても活躍されています)

可能な方は、事務局(TEL:089-943-2025)までご連絡ください。

2) これからの活動予定

① 「国際交流市民ボランティア入門講座 国際交流団体ガイダンス」

(まつやま国際交流センター主催)に参加します。

開催日 : 2016年2月28日(日) 13:30~16:00

会場 : コムズ5階 大会議室

② 春の日本語集中講座(3月7日~18日開催)に参加するフライブルク市民(フライブルク松山会会員)との交流(詳細は未定)

③ フライブルク市民訪問団(4月1日~4日の間、松山を訪問)との交流(詳細は未定)

編集後記

西村 恭子

今回の会報は独日協会・フライブルク松山会会長ユルゲン ヴェルケさんから2015年のフライブルク会の多彩な活動の様子と建築物や電車の路線延長等をはじめとして、地球温暖化や難民問題等を市民の目線で沢山伝えて頂きました。フライブルク市の鼓動が聞こえるようです。2016年も皆様のご参加をお待ちしています。

松山フライブルク会のホームページも宜しくお願ひします
ミュンスター寺院の鐘の音等もビデオで紹介しています

<http://www.matsuyama-freiburg.com>

松山フライブルク会

検 索

